

補助事業番号： 20—121

補助事業名： 平成20年度アジア諸国との経済交流等促進補助事業

補助事業者名： 財団法人 貿易研修センター

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

世界経済における重要度をますます高めつつあるアジアとの良好な経済関係を維持構築することは、機械工業を中心とするわが国産業界が円滑な経済活動を確立し、持続的な発展を図っていくためにも必要かつ不可欠である。そのためには、企業単独の努力や政府レベルの取り組みだけでは必ずしも十分とはいえず、民間の活動と国の政策を密接に連動させ、補完支援することが重要である。こうした観点から貿易研修センターでは、アジアの主に経済産業に関するテーマを取り上げた講演会、セミナー、調査研究等の各種事業を積極的に行うことにより、わが国の機械工業等を取り巻く国際的な事業環境の変化をいち早く捉え、最新情報として行政機関や企業等に提供し、一方ではそれらの情報を基にして策定された政策や企業の活動がより効果的・効率的に実現できるよう多様な分野とレベルにおいてアジア諸国との相互理解、人材育成を促進するなど、対外経済活動の側面支援を行うことにより、アジア地域におけるわが国機械工業等の振興に寄与することを目指す。

### (2) 実施内容

#### ① アジア問題講演会・研究会

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec.html>

##### ア. アジア月例講演会

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec-monthly2008.html>

アジア地域のタイムリーな情報の提供と意見交換を行うため、アジア専門の学識経験者、行政官、海外駐在経験者、ビジネスマン、ジャーナリスト、アジアから来訪する各国要人等を講師とした月例講演会を、時々の政治・経済等の動向を踏まえて関心の高く、鮮度のあるテーマを選定して実施している。本企画は、アジア問題に関連する行政官、学術研究調査機関、民間企業などの幹部職員を対象としており、参加者には原則アジアメンバーズとして登録をいただき、迅速な案内、フィードバックなどができるよう運営している。講演内容は、要旨をホームページなどで広く公開するとともに、詳細な講義録、関係資料は主要関係機関およびIISTアジアメンバーズに提供している。20年度においては計10回の講演会を実施した。なお、一回当りの参加者数は約50～60名程度で、延べ参加者数は569名であった。

##### イ. テーマ別研究会

##### 「IIST アジア研究会」

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec-asia2008.html>

グローバル時代のアジア問題に的確かつ迅速に対処し、経済産業省の対外経済政策、とりわけ東アジア政策の立案、推進に資するべく、学識経験者、行政官、業界関係者、関係機関等が、わが国が今後とるべき進路について自由に語れるフォーラムの場として、「IISTアジア研究会」を18

年度に立ち上げた。20年度は、過去2年間の成果を背景にさらに踏み込んで、アセアン・東アジア経済統合に向けて注目を集めるメコン経済圏に焦点を当てた。「東アジア経済統合におけるメコン経済圏」との研究テーマのもと、アセアン・東アジア経済連携が進展する中で、今後のメコン経済圏の発展に向けた取り組みをどのように進めていくべきか、貿易・投資、国際物流、エネルギーといった、同地域の経済発展の諸問題について議論を行った。20年度には、非公開による例会を全4回開催し、延べ98名が出席、年度末に行った公開シンポジウムには一般参加者を含む計118名が参加した。なお、計4回の例会および公開シンポジウムの報告記録は、センターおよびIISTアジアメンバーズ専用ホームページ上で公開、情報提供している。

#### 「IIST・中央ユーラシア調査会」

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec-eurasia-2008.html>

わが国において極めて情報量が限られている中央ユーラシア地域(朝鮮半島からトルコにかけて存在する国々)の政治、経済、産業、文化、歴史等について基礎的な調査・研究を行う事業である。調査会では、当該地域の動きを正確に把握し、関係者の認識を深め、わが国が取るべき方向性を議論することを目的として、旧アジアクラブ時代の平成12年11月に発足した研究会で、その後継続実施している。20年度には、第85回～第94回まで全10回開催、内9回は非公開による会合とし、延べ165名が出席。第91回は公開シンポジウムとして開催し、一般参加者も含め計122名が出席した。なお、第85回～第94回の報告記録は、センターおよびIISTアジアメンバーズ専用ホームページ上にて公開、情報提供している。

#### ②アジア新市場開発ミッション派遣

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/business.html>

アジアにおいて今後発展の可能性の高い地域や産業分野について、わが国との貿易・投資関係拡大、新ビジネスの可能性などを探求するため、わが国の学識経験者、産業界の有識者などからなるミッション派遣を行っている。ミッションは、訪問国の有識者との意見交換を通じて問題点を把握するとともに、その解決に向けて国内産業界や政策当局に情報提供することにより、当該産業や新市場の育成、発展に寄与することを目的としている。20年度においては、「中国東北・華北地方経済交流ミッション派遣」、および「メコン圏中小企業事情調査ミッション」の2件のミッション派遣を行なった。

##### 1)中国東北・華北地方経済交流ミッション派遣

北陸地域からの進出企業が多く経済交流の盛んな大連、瀋陽等の中国東北地域や青島等の中国華北地域に中国経済の専門家を派遣し、中国企業および北陸からの進出企業、地元学術機関と、今後の経済交流促進に係る意見交換会を実施した。また、ソフトウェアパーク等の現地産業施設や、港湾の物流・港湾施設等の視察、瀋陽市、青島市等の地方政府への表敬訪問及び意見交換会を行い、中国東北・華北地域との経済交流発展の現状分析及び今後の方向性等について調査を実施した。これに加え、平成19年、富山市において開催された「北東アジア経済フォーラム北陸大会」につづく、10月27日から開催予定の天津会議に参加し、経済開発及び対日経済交

流状況について情報収集し、天津市政府、天津経済技術開発区を表敬訪問し、北陸地域と天津市との経済交流拡大に向けて意見交換会を実施した。

## 2) メコン圏中小企業事情調査ミッション

近年、メコン地域において中小企業振興施策の拡充、我が国の中小企業進出の増加が見込まれている。このような中、これら地域における中小企業振興に資するため、中小企業分野の専門家を派遣する「メコン圏中小企業事情調査ミッション」をベトナムとカンボジアの2カ国で実施した。本ミッションの成果を生かし、21年度には「アジア若手有望指導者事業」の一環として、中小企業振興をテーマに「第3回 CLMV 若手有望指導者招聘事業」を実施する予定である。

### ③ アジア若手有望指導者研修

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/young-leader.html>

カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV 諸国）の経済発展及び対日理解促進、ならびに日本との交流促進強化に資するため、これら諸国の若手指導者を我が国に招聘する「第2回 CLMV 若手リーダー招聘事業」を実施した。今回はエネルギー分野に焦点をあて、当該諸国からエネルギー分野を所掌する省庁の若手有力高官、関連機関・国営企業の幹部を招聘し、我が国のエネルギー事情や政策に対する理解を深めて頂いた。また、同じエネルギー分野のカウンターパートとの交流を深めて頂き、我が国の新世代の各界リーダー相互との関係強化に貢献した。なお、プログラム初日に開催した歓迎レセプションには、CLMV諸国に関心のある企業の方々及び政府関係者等、100名を超える参加者が出席し、積極的に招聘者との親交・交流を深め、日本のCLMV諸国への関心の高さが伺われた。

### ④ 在日アジア外交官交流（アジアインダストリアルツアー）

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/industrial.html>

在日アジア外交官の日本経済および地域産業理解の促進、地域経済リーダーとの交流を図るとともに、アジアの外交官同士の相互交流を通じて、これら諸国とわが国の円滑な経済交流に資すること目的に実施している。20年度には、在日アジア外交官を対象に地方都市を訪問し、生産現場視察を含むインダストリアルツアーとして、「広島県・山口県の産業事情視察」および「高知県・愛媛県の産業事情視察」の2件を実施した。

#### 1) 広島県・山口県の産業事情視察

日本の経済発展近代化のプロセスにおいて重要な役割を果たし、かつ歴史的に重要な遺産を有する広島、山口県という中国地方の2大県を取り上げ、これら地域の経済産業事情をアジア諸国の外交官に紹介する、在日アジア外交官交流事業「広島県・山口県の産業事情視察」を経済産業省の協力のもと実施した。今回の視察では、広島県・山口県を代表する企業の関連施設を訪問してその取組みを視察するとともに、日本の歴史において大きな役割を果たした歴史的遺産（平和記念公園、宮島、萩市、下関市）を視察したことで、アジア各国の参加者にとっては、中国地域の産業事情について知識を深めるとともに、日本の歴史の一端を理解する有意義な事業となった。さらに、本事業については、地域マスコミの関心も非常に高く、萩市においてはテレビ局2社（萩ヶ

ーブルネットワーク、KRY 山口放送)と新聞1社(みなと山口合同新聞社)、また下関市においては、新聞6社(日本経済新聞社、みなと山口合同新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、朝日新聞社)の各下関支社を通じて取材があり、本事業の実施状況が報道された。

## 2)高知県・愛媛県の産業事情視察

高知県室戸市にある、海洋深層水資源の有効利用を図る技術開発プロジェクトなど、四国には地域特有の産業が多く存在する。そのため、高知、愛媛県という四国地方の2大県を取り上げ、これら地域の経済産業事情をアジア諸国の外交官に紹介する、在日アジア外交官交流事業「高知県・愛媛県の産業事情視察」を、経済産業省の協力のもとで実施した。今回のツアーでは、高知県・愛媛県を代表する企業の関連施設を訪問してその取組み状況を視察し、地方においても、独自の技術開発や理念をもつことにより成功している中小企業の強みや企業発展のプロセスを学んでもらった。また、今後の自国の経済発展のために今回訪問した企業との間で、協力関係を築いていきたいという参加者も多かった。例えば、谷口金属熱処理工業所に対して、アジア各諸国から訓練目的で人材を派遣したいという要望もあった。さらに、本事業については、地元マスコミの関心も非常に高く、高知県においては新聞1社(高知新聞)、また愛媛県においては、新聞2社(愛媛新聞、日刊工業新聞)、テレビ局2社(NHK、あいテレビ)を通じて取材があり、本事業の実施状況が報道された。

## ⑤アジア問題調査

アジア地域における経済環境の動向に即応した形で、時々的重要かつ緊急度の高い問題について、有識専門家からなる調査チームを現地に派遣し、関係機関や企業を訪問、取材・意見交換等により、当該問題の現地実情・実態を把握し、いち早くわが国の関係産業界・行政機関へ参考情報を提供する事業である。20年度には、以下2件の調査を実施した。

### 1) ミャンマーにおける縫製産業の現状と発展可能性— 日本市場への参入を中心として —

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/h20-myanmar.html>

ミャンマーの縫製産業は同国最大の輸出工業部門であり、グローバルな生産・流通ネットワークに組み込まれている数少ない産業部門である。その労働集約度の高さから雇用創出への影響も大きく、縫製産業が今後、持続的発展を実現できるかどうかは、ミャンマーの経済発展そのものにとっても重要な意味を持つ。本調査ではその発展可能性を検証するという目的のもと、この分野で実績のある3名の専門家をミャンマー(ヤンゴン等)に派遣した。

### 2) インド経済調査

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/h20-india.html>

近年、アジアの成長を語るうえで、インドの存在感が増している。インドは、人口13億人の中国に次いで、11億人の人口を抱え、今まさに経済がテイクオフしつつある。このように、インドでは人口増加と経済発展に伴い大消費市場の形成が「チャンス」として認識される一方で、「リスク」として環境や資源、インフラ、水問題等が浮かび上がってきている。本調査は、このように大消費市場

として注目を集めるインドの現状と課題を、環境や資源エネルギーの問題と照らし合わせて、調査するため、「インド経済調査団」として経済と環境分野の専門家3名を派遣した。なお、本事業は(社)関西経済連合会、(財)地球環境戦略研究機関(IGES)との共催にて実施され、(財)貿易研修センターから派遣した専門家の他IGES所属の環境専門家や関西のビジネス界の幹部らも参加し、ビジネス分野でのネットワーク構築の一助となった。

## ⑥アジア要人招聘

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/asia-invitation-program.html>

アジア諸国より主に経済産業政策等に携わる省庁の大臣クラスなどの政府高官、経済団体の指導者等の要人を個別に招聘して、わが国の政治・行政・経済各界の要人との意見交換や産業視察などを通じて、対日理解と人脈形成を促進するとともに、招聘要人を講師とする講演会などを開催して、当該国の経済産業状況の紹介に努めた。20年度においては今後の一層の経済連携強化を視野に入れて、中央アジア(カザフスタン、ウズベキスタン 計2名)、およびモンゴル国(2名)から、計4名を招聘した。

### 1) 中央アジア地域問題研究者招聘

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/eurasia/sym-eurasia-03/sym-eurasia-03.html>

我が国の資源確保の観点から近年とくに注目を集める中央アジアのカザフスタンとウズベキスタンより、政治経済事情に詳しい著名な研究者2名を招聘した。招聘者は、外務省や経済産業等での面談の他、ロシアNIS貿易会(ROTOBO)や東京外国語大学では、当該地域を研究する専門家や学生らとの交流の場を設け、様々な分野の関係者と関係を深めた。我が国の関係者からは、未だ情報が少ない、当該地域の最新の情報について意見交換を行える機会となり、大変有意義であったとコメントを頂いた。また、招聘者2名は10月8日(水)に開催したIIST・中央ユーラシア調査会公開シンポジウムにおいて当該地域の政治・経済・社会事情について講演し、一般参加者への理解を促すと共に、内外の研究者との意見交換を通じ、相互の交流促進にも成果をあげた。

### 2) モンゴル国経済人招聘

<http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/h20-mongolia.html>

モンゴル国の経済発展の促進及び我が国との経済交流推進に資するため、当該国より要人を招聘し、政府、産業界等との意見交換等を通して、相互理解促進及び交流の強化を図ることを目的に、モンゴル国商工会議所会頭ほか計2名を招聘した。

## 2. 予想される事業実施効果

本事業では、グローバル化に伴うアジア地域の経済情勢を中心に時局を得たテーマを取り上げた講演会、セミナー、研究会、調査、産業視察などの事業を通じて、我が国の機械工業等を取り巻く国際的な環境の変化をいち早く捉え、最新情報として行政機関や企業、また広く一般参加者に提供することができたが、これらの情報を踏まえて策定された政策や企業がより効果的・効率的に実現できるよう、アジア諸国との相互理解及び人材育成を促進する交流や研修などの事業により、我が国とアジア諸国との機械工業産業の経済交流の発展・促進に寄与することが期待さ

れる。

### 3. 本事業により作成した印刷物等

#### ①アジア問題講演会

##### ■第24回 IIST アジア月例講演会（資料）新興国 SWF とイスラム金融

配布資料作成 80 部

配布先：参加者への当日配布 70 部

##### ■第25回 IIST アジア月例講演会（資料）CLMV 諸国の経済発展戦略

配布資料作成 50 部

配布先：参加者への当日配布 41 部

##### ■IIST・中央ユーラシア調査会公開シンポジウム（第91回）

（資料）「世界情勢の変化と中央アジア・コーカサスの現状」

配布資料作成 125 部

配布先：参加者への当日配布 122 部

##### ■IIST アジア研究会公開シンポジウム

（資料）「東アジア経済統合におけるメコン経済圏

配布資料作成 120 部

配布先：参加者への当日配布 112 部

##### ■第25回 IIST アジア月例講演会

（資料）国際機関 ERIA の創成と東アジア経済発展の条件

配布資料作成 65 部

配布先：参加者への当日配布 58 部

##### ■「平成20年度テーマ別研究会」

IIST アジア研究会～東アジア経済統合におけるメコン経済圏～ 報告集

配布資料作成 100 部

配布先：委員等関係者への配布 30 部

##### ■「平成20年度テーマ別研究会」

IIST・中央ユーラシア調査会～中央ユーラシアへの多角的アプローチ Vol.8～ 報告集

配布資料作成 100 部

配布先：メンバー等関係者への配布 60 部

## ②アジア新市場開発ミッション派遣

### ■「平成20年度アジア新市場開発ミッション派遣事業」

～メコン圏中小企業事情調査ミッション～ 報告書

配布資料作成100部

配布先：委員等関係者への配布50部

## ③アジア若手有望指導者招聘

### ■「平成20年度アジア若手有望指導者招聘事業」～第2回CLMV若手リーダー招聘～ 報告書

配布資料作成100部

配布先：委員等関係者への配布32部

## ⑤アジア問題調査

### ■「平成20年度アジア問題調査」

ミャンマーにおける縫製産業の現状と発展可能性 - 日本市場への参入を中心として -  
報告書

配布資料作成200部

配布先：委員等関係者への配布150部

### ■「平成20年度アジア問題調査事業」～インド経済調査～ 報告書

配布資料作成300部

配布先：事業参加者等関係者への配布232部

## ⑥アジア要人招聘

### ■「平成20年度アジア要人招聘事業」～中央アジア地域問題研究者招聘～ 報告書

配布資料作成100部

配布先：事業参加者等関係者への配布62部

### ■「平成20年度アジア要人招聘」モンゴル国経済人招聘 報告書

配布資料作成50部

配布先：事業参加者等関係者への配布42部

## 4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：財団法人 貿易研修センター（ボウエキケンシュウセンター）

住所：105-0001

東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館2階

代表者：理事長 塚本 弘（ツカモト ヒロシ）

担当部署：アジア部（アジアブ）

担当者名：富所 香織（トミドコロ カオリ）

電話番号：03-3503-6621

F A X : 03-3501-0550

E-mail : [tomidokoro@iist.or.jp](mailto:tomidokoro@iist.or.jp)

U R L : <http://www.iist.or.jp>